

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念が出来上がり、法人の基本理念と共に正面玄関に掲載し、職員は出勤時に目に入るようにして、日々の業務の基本としている。	グループホームの理念を、昨年、職員全員で話し合い作成した。「関わり合い 語り合い その人らしい暮らしを支える」という理念で、あじさい・ひまわりの各ユニットのスローガンも作られている。それぞれのユニットの玄関には法人の理念と一緒にホーム理念、ユニットスローガンが掲げられている。理念にふさわしくない言動が見られた時は管理者が個別に話を聞き、指導している。全体会議の時にも事例として話し合い実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事(運動会、祭り見学)に参加している。天気の良い日は近所を散歩し、近所の方と挨拶をかわし、たまにはお野菜などを頂いている。	自治会に加入し市報が配布され、地区の情報などを得ることが出来る。敬老会の時、地区の獅子舞がお祝いに駆けつけ舞っていただいている。紙芝居、歌、コーラスなどのボランティアの来訪もある。利用者が近所を散歩する時や地区の行事に参加した時に近隣の方から声をかけられる機会が増えている。	毎年行っているホームの夏祭り等を近所の方々に広報でご案内し、グループホーム本来の地域に密着したホームを徐々に目指していただくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治協議会の福祉担当グループとミーティングの機会を持ったり、運営推進会議で区長との意見交換も行っているが、今の所、具体的な活動の機会はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、会議では、活動の報告、事故及びひやりはっとの報告もさせていただいている。地域のイベントの情報や行事の際の場所の情報をご提案頂き、活動の場を広げている。	家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員で構成され2ヶ月に1回開催している。利用状況、活動、ヒヤリハット、事故等の報告をし、意見交換をしている。事故報告などについて委員からその仕方の提案などがありケアに取り入れている。初詣の場所なども利用者の負担にならない近隣の場所などを教えていただき出掛けていったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の場を利用して、協力体制やサービスの向上、地域への貢献について意見交換をしている。不定期ではあるが、自治協議会の福祉担当グループとのミーティングも行っている。	事故報告などについてアドバイスを頂いている。介護保険更新手続きは基本的に家族に申請していただいているが、依頼があれば代行申請をしている。また、調査時には家族が同席することもあるが職員から利用者の状況を正しく説明している。「介護あんしん相談員の派遣は市に要請しているが今のところまだ訪問はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、家族の了解のもと行っている。利用者の外出時には、必ず職員が付き添っている。身体拘束については、全体会議において意見交換をして理解を深め実施している。	ホームの前の2車線の県道は須坂長野東インターへ繋がる道であり、かなり交通量が多い。一人分の歩道がついているが歩くと危ないこともあり、家族了解の下、安全のために玄関は施錠している。転倒防止のため家族の了解をいただきセンサーマットを使用している方もいるが、身体拘束についてははしないことを基本としており職員もその弊害について理解している。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー参加者の話を聞いたり、関係資料に関心を持ち学習している。利用者が外出しそうな様子があった際には、止めるのではなく、話を聞いたり、玄関外まで同行し、利用者が納得するまで行動を共にするよう指導、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各々が学習に努めている。まだ研修会など組織だった学ぶ機会や話し合いの機会が持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り丁寧に説明を行っている。特に予測されるリスク、重度化や看取りについての対応や方針、料金や医療連携体制について、詳しく説明し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来訪時など、面談のたびに何でも言ってくれる雰囲気作りに留意している。また、出された意見は、全体会議などで話し合い、反映させている。	約半数位の方は言葉で伝えることができ、利用者から直接、要望などが伝えられている。家族は大半が長野市周辺の居住者で、回数に違いがあるが来訪されている。訪問された時には職員が利用者の状況などを説明している。また、ケアプランなどに関する説明は管理者、ユニットリーダーが対応している。毎月、日常のスナップ写真を載せた「ひだまり通信」を家族に配布しコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、個別面談で意見を聞くようにしている。また、また普段から言いやすい雰囲気作りをしている。管理者に言えないことは、理事や事務長などに話せるようにしている。	原則として職員はユニット固定としており、月1回、全職員が参加する定例会を開催し業務報告、勉強会などを行い、その後、各ユニットに別れ利用者のケアに関する話を中心とした会議を開いている。外部より講師を招いた勉強会や外部研修に参加した職員の伝達研修なども会議の時にやっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に顔を出し、現場職員の話や聞き取り、行事なども共に行動し、職員の勤務状況や職場環境の把握、改善に努めている。キャリアパスの導入を検討、推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画をたて、外部研修の機会の情報提供も行っている。また、研修報告を全体会議で報告し情報共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に参加し、研修の参加や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態の把握やご家族に生活歴の記入などをして頂いている。不安な事を理解し、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めるものを理解し、どのような対応が出来るかどうか話し合いを重ね、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援を提案し、必要なサービスにつながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや不安などを日々の生活の中で把握した上で、料理や洗濯、掃除など家事全般や人生観などを学ばせて頂き良い関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や気づいた様子を報告しながら、困ったことなどを相談し、一緒に豊かな生活が送れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の認めた知人や友人の来訪者を受け入れたり、行きつけの美容院に行くなどこれまでの生活習慣を尊重している。	自宅近所の方や友人の訪問があり居室にてお茶の接待をし歓談していただいている。お盆、お正月に一時帰宅する方や家族と一緒に行きつけの美容院を利用される方、携帯電話を所持し家族・友人と連絡を取る方などがいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が円滑にいくように、職員が調整役になって支援している。利用者同士のトラブルが発生した場合は、そのままにせず、各々の話をしっかり聞いてダメージが残らないように対応している。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランを手渡し、情報共有をしている。また職員は機会を作り訪問に行くなどし、必要な情報を提供し、生活の向上に生かしていただけるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を主に日々の関わりの中で希望、意向をお聞きするように努めている。	職員の居室担当制とし、担当者は日常を通じて好きなことや、したいことなどを利用者に聞き、家族の協力も得ながら意向を支援の中に取り入れている。書道の好きな方は家から道具を持ってきて、お正月など、機会があるたびに書いている。夜、9時ごろまでホールでテレビを見ているとお互いの会話も多く、色々な話が出るので、日頃の支援の参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からお話を聞いたり、利用していた施設担当者からも情報提供をお願いし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で健康状態を把握。食事量や表情などから心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から日常の関わりで感じている思いや課題についてお聞きし、カンファレンスをおこなっている。	利用者や家族の要望を聞き計画に反映している。居室担当者がモニタリングを行いユニット会議で話し合い、計画作成担当者が短期、長期のプランを作り定期的に見直しをしている。利用者には難しくならないように説明し、家族の来訪時にも援助内容などを説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など申し送り表に記入し職員間で把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や必要な買い物などに連れ出し、個々の満足を高めるよう努力している。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域情報の収集と関係性強化に取り組んでいる。コンサートの参加や運動会への見学に行かせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により主治医を決めている。緊急の場合などは、職員が対応し、緊急医や総合病院の対応を行っている。受診結果はご家族に報告し情報を共有している。	契約時に家族に決めていただいている。ホームへの往診が可能なかかりつけ医もいるが、通院は家族付き添いをお願いしている。歯科の訪問診療も行われている。ホーム職員が付き添う時の家族への連絡はユニットリーダーか看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護資格を有するものがあり、日常の健康相談や急変時の対応を行い職員間で情報を共有化している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の看護師や地域連携室のケースワーカーと連携を取り合い、退院前には担当者会議をおこなっている。入院が長引く際は、ご家族と連絡を取ったり、管理者、ケアマネージャーが面会に行き状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化対応に関する指針を提示し、看取りに関する理解と協力をお願いしている。またその際には、希望の聞き取りもおこなっている。	契約時に説明をしている。開設より2年4ヶ月経っているが、救急で病院へ搬送された方はいたがホームでお見送りした方は今のところない。現状ではスタッフの経験や知識もまちまちなので新年度には研修などを計画していきたいという意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応のマニュアルと連絡網を作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を年2回おこなっている。避難経路や消化器の位置などの把握している。	スプリンクラー、火災通報装置等が設置されている。年2回の訓練を予定しており、今年度は7月と12月に夜間想定で行った。車イスの利用者も含め利用者と職員が消防署員指導の下、行った。消防署員からは「落ち着いてスタッフが声を掛け合いながら行い良かった。最終確認はトイレの中も」と評価とアドバイスをいただき、ホームでも次回に繋げていこうとしている。	

グループホーム愛ランドわたくち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛け接遇等の研修にも参加している。不本意な状況が発生した場合は、全体会議などで問題提起し話し合いを持ち改善に努めている。	接遇などの外部研修に参加した職員が全体会議で伝達研修を行っている。利用者からの発言を受け止め職員間で共有するようにしている。利用者への呼びかけは苗字か名前に「さん」を付け利用者へ敬意を込めて呼んでいる。今のところ排泄や入浴の際に異性介助を嫌がる利用者はいないが利用者の意向を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時15時のおやつ時は一人一人に希望をお聞きして飲みたいものなどをお聞きしたり、着替えの洋服の選択の機会を提供したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望をお聞きしたり、ご様子から推測してレクリエーションの参加など、その方の体調やペースに応じた行動をして頂いたり、やりたいお手伝いをお聞きしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時などご本人が希望される髪型や洋服などを出来る限りお聞きしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けを一緒におこなったり、もやしの芽や根っことりなど下ごしらえをして頂いている。	ご飯とみそ汁をホームで作り、副菜は昼と夜分は本部厨房より届いている。利用者と職員が1ヶ所で顔を合わせながら同じものを食べている。食べ終わると食器を重ね隣の人へと移しており、また、一人ひとりの利用者にはそれぞれの役割があり、テーブルを拭く方、食器を拭く方などゆっくりと行っていた。外出行事の時に蕎麦屋や回転ずし、ファミレスなどに行き、普段と違う食事やおやつを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を把握し、不足の場合は別途摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、洗面所にて行なって頂いているが、介助の必要な方や義歯などは職員が磨くなどしている。歯科医の訪問指導も受けている。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で間隔を確認し誘導している。	排泄チェック表の活用と利用者の様子を見ながら声がけをしている。ポータブル使用の方もいるが基本的にトイレで排泄するように支援している。利用者の状況により夜間厚めのパッドを使用するなど、対応を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で間隔を確認し、お薬が必要な方には内服して頂き便秘にならないようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日を決め入浴して頂いているが、体調や気分などに応じて柔軟な対応を行っている。	1週間に2回の入浴を予定し、週間予定表をリビングに掲示している。1日3名が入浴しており、車いすの方は職員二名で介助するなど、ゆっくりと入っていただけようになっている。入浴を拒否する方には時間をずらしたり職員を変え、それでも難しい場合は曜日を変更している。ゆず湯、リンゴ湯、入浴剤なども使用し、足浴なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを調べ夜間の安眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬情報をファイリングし、職員が容易に情報を把握出来るようにしている。処方の変更があった場合は申し送り表に記載していくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や役立ちを意識して頂けるよう、お裁縫の得意な方には縫い物をお願いしたり、自らすすんでお盆拭きなどしていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて近隣のお散歩をしている。時には職員が付き添い、車で外出して食べたい物を選んで頂いたりしている。	雪のある時は室内でユニット間の廊下を歩きリハビリをしている。天気の良い時は職員と一緒に少人数で話を楽しみながら近所を散歩している。また、心地よい時季には庭でお茶を飲むこともある。初詣、リンゴ狩り、七夕、紅葉狩り等の外出行事も行われている。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、本人のお金の所持は行っていないが、今後お買い物などの際の検討をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に話をしていたり、希望する方には、電話を掛ける支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には、季節の花を植えて歩行時などに自由に見て頂いている。また各ユニットには、季節に応じた貼り絵などが飾ってある。	玄関には法人の理念、方針、グループホームの理念などが掲げられている。訪問時には段飾りのお雛様が片方のユニットの和室置かれ、利用者が共同で制作した大きなイチゴの貼り絵なども飾られていた。もう一つのユニットのリビング隣にある和室には利用者が利用しやすいようにソファも置かれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方の席を隣にするなどし、気軽に話が出来るようにしている。またソファの位置を変えて、施設内の散歩の時などお隣のユニットの方が自由に座れるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、日用品や家電用品は自由に置いて頂いている。	居室には家から好みの道具が持ち込まれ生活感のある居室作りがされている。花の好きな方は折り紙や布で制作した花を窓際や筆筒の上に飾っている。テレビや自慢のソファ、ご両親と一緒に写った写真立て、ミニ仏壇など、利用者にとって馴染みのものや懐かしいものが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前を表記したり、トイレや浴室の場所が把握出来るよう表記している。		